

# シラバス

## はじめに

「シラバス」 Syllabus とは、ギリシャ語に語源を持つ言葉で、「各教科の授業内容や学習の方法、評価の方法などを記した総合的な学習計画」のことです。

富雄中学校の「シラバス」は、本校の教育目標である

- ① 豊かな心を養い、人権を大切にす生徒を育てる
- ② 自ら学ぶ意欲と自ら考える力を養い、自主的に実行する生徒を育てる
- ③ たくましい心身を養い、活力のある生徒を育てる

ということを実現するために、各教科・領域の学習において、

- ① 基礎基本の定着と活用能力の育成
- ② 表現力（話す・聞く・書く）の育成
- ③ 基盤の学力と学習習慣の定着

といったことを生徒みんなが身につけていけることを目指し、1年間の授業の流れを見通して、学習に関するまとめを作成しました。

このシラバスには、生徒の皆さんが、より計画的・主体的に授業に取り組めるように、1年間の学習の「道しるべ」としての意義があります。

中学校の3年間は、人間の一生の中で最も成長著しい時期にあたります。私たち教職員は、この大切な時期に、生徒の皆さんが、このシラバスをよりどころとして、日々意欲的に学習に取り組んでくれることを、心から期待します。

また、本校の教育が、保護者や地域の皆様にご理解とご支援をいただきながら、充実・発展していくことを願っています。

## 各教科の内容

各教科の構成は次のようになっています。

- ① はじめに
  - ・ それぞれの教科についての特徴などの説明
- ② 年間計画
  - ・ 1年間で学習する内容についてとその学習する順序
  - ・ それぞれの学習内容についてのねらい
- ③ 教科の先生からのアドバイス
  - ・ それぞれの教科での授業の受け方について
  - ・ それぞれの教科での家庭学習の仕方について
  - ・ それぞれの教科での評価の仕方等について
  - ・ その他
- ④ 評価について
  - ・ それぞれの教科での評価の観点について
  - ・ それぞれの教科での評価の資料や対象について
- ⑤ 終わりに
  - ・ それぞれの教科からの補足



## 全ての教科で共通すること

### ① 準備物

#### ○ 教科書

- ・ 教科によっては分野により異なる教科書を使用することがあります。

#### ○ ノート

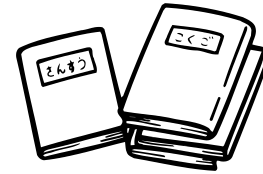
- ・ 教科によってサイズが異なることがあります。
- ・ ルーズリーフでもよいという教科もあります。

#### ○ 補助教材

- ・ 教科により教科書の他に使用する教材があることがあります。

#### ○ 筆記用具

- ・ シャープペンシルだけでなく、鉛筆も用意しましょう。
- ・ 色鉛筆や色ペンなどがあれば良いですね。
- ・ 直定規やコンパスなども準備しておきましょう。



### ② 毎時間の授業に対して守ること

#### ○ チャイム着席

- ・ 前の授業が終わったら、次の授業の準備に取りかかりましょう。
- ・ チャイムが鳴ったときには全員が着席できているように心がけましょう。

#### ○ 忘れ物について

- ・ 忘れ物をしないように、前日に準備をしておきましょう。

#### ○ ノートをしっかりとる

- ・ 授業では先生の話をよく聞いて、しっかりノートを書きましょう。
- ・ 黒板の字や学習プリントの答えを書くところはもちろん書きますが、黒板に書いていないことでも、先生の話の中で「大切だ」と思ったことはメモをしておきましょう。

#### ○ 私語はしない

- ・ 授業の内容に関することなどについては、積極的な発言をどんどんしてください。

#### ○ 課題

- ・ 課題（宿題）が出されたら、家で落ち着いて取り組みましょう。  
締め切りは、必ず守りましょう。

## テストの受け方について

- ① 声を出したり、私語したりせず、決められた席で終了するまで静かに受ける。
- ② 監督の先生の指示に従う。
- ③ 先生の「始め！」という指示があるまで鉛筆（シャーペン）を持たない。  
また、「やめ！」という指示があれば、すぐに鉛筆（シャーペン）を置く。
- ④ テスト中の筆記用具・消しゴム・定規などの貸し借りは、いっさい認めない。
- ⑤ 筆記用具は、余裕をもって準備する。また、特に指示されたもの（コンパス・カラーペン等）は、必ず持ってくる。  
なお、下敷きは、許可された者のみ使用してもよい。
- ⑥ テスト中は筆記用具のみを机の上に置き、教科書・ノート類はすべて後ろのロッカーに入れ、机の中は空にしておく。  
(テストのプリント類も机の中に入れずに折りたたんで机の上に置いておく。)
- ⑦ 最初に解答用紙に組・出席番号(女子も1番から)・氏名(姓、名ともに)を書く。
- ⑧ 何を書いているか分からない文字は×になるので、ていねいに書く。
- ⑨ カンニングなどの不正行為は絶対にしない。
- ⑩ 終了の合図があるまで横を見たりせず、しっかりとやり直し・見直しを繰り返し、最後まで努力する。
- ⑪ トイレは必ず休み時間に行っておく。
- ⑫ 体調の悪いときは、事前に申し出るようにする。
- ⑬ 印刷が不鮮明で見にくかったり、枚数の足りないとき、また急に気分が悪くなったときなどは、黙って手を挙げ、監督の先生に申し出る。
- ⑭ テスト終了後は、先生の指示に従って各列一番後ろの人が、出席番号順にきちんと解答用紙を集める。その後、集められた答案を先生が前で確認する間、他の人は後ろを見たり横の人としゃべったりせず、静かに待つ。

- ☆ 問題用紙はファイルに綴じて大切に保存しておき、次の授業のときに持ってきてきましょう。



## 評価について

### 通知票は絶対評価で

学習指導要領の大きな柱は、「生きる力」＝「自ら学び、考え、課題を見つけ、それを解決していく資質や能力」の育成です。「評価」は、この「生きる力」を育てるために、「子どもたちにとっては、自分自身を見つめ直し、新たな目標や課題を持ち、意欲的に取り組むための資料として役立てるもの」「教師・学校にとっては、指導方法を振り返り、よりよい指導に役立てるもの」と言えます。その意味で、毎日毎日の教科の授業や教育活動そのものが、評価活動です。

私たちは、日々の教育活動の中で、今まで以上に、一人一人を見つめ、そのよさを積極的に評価し、やる気を起こさせ、個性や可能性を伸ばしていきたいと考えています。

従来、ややもすれば、定期テストや実技テストが評価の中心であるように思われがちでしたが、（もちろん、定期テストや実技テストの重要性を否定しているのではありません。）「評価」は、日々の教育活動そのものからとらえ直そうというものです。

### 絶対評価とは

絶対評価とは、目標に準拠した評価とも言い、学習指導要領に示された目標に照らして、学習の到達度を総合的に評価するものです。あらかじめ各評定に%や人数枠は設定しないで、目標に到達したか否かで評価します。目標を低く設定しすぎれば、5・4が増え、2・1が減り、目標を高く設定しすぎれば5・4が減り、2・1が増えます。

本校では、各教科における到達目標の設定をより適正に行うよう、全体・各教科での研修を深めてきましたが、さらなる研修を重ねよりわかりやすい「評価」を追求していきます。

### 各教科の観点別評価

各教科の観点は、国語（5つの領域）を除き、おおむね

「関心・意欲・態度」

「思考・判断力」

「表現力・技能」

「知識・理解」の4つの領域で構成されています。

内容のまとめ(単元)ごとに評価規準を整理し、日々の授業を通して評価を行います。

各観点との評価を蓄積し、学期ごとに総合的に判断します。

通知票への記載については、

A…………十分満足できる

B…………おおむね満足できる

C…………努力を要する

3段階で評価します。絶対評価ですので、各評価段階の人数枠は設けていませんが、各教科で単元ごとに適正な到達目標を設定します。

### 各教科の評定

観点別評価を基本要素(土台)とし、総括的に5段階で評価します。5段階の内容は次のとおりです。

5…目標に照らし、十分満足できるもののうち、特に程度の高いもの

4…目標に照らし、十分満足できるもの

3…目標に照らし、おおむね満足できるもの

2…目標に照らし、努力を要するもの

1…目標に照らし、一層努力を要するもの

本校では4つ(国語のみ5つ)の観点別評価を点数化して、総括的に評定を行っています。単元によって変化はありますが、観点ごとの比重はほぼ一定にしています。したがって、より適正な評価を行うために、日常の学習の中で、きめ細かく点検していきます。

ですから、毎日の授業をきっちり受ける必要があります。

### 1学期のテストについて

学校週5日制が実施され、教科の指導内容も削減される中、私達は各教科の授業時数を1時間でも多く確保するべく検討を重ねてきました。また、1学期はじめは、行事が多彩で、落ち着いてスタートがきれないという悩みもあり、平成14年度より、1学期の中間テストを廃止してきました。しかし、平成24年度より指導内容も増え、週あたりの授業時数や授業内容の増加したのを機に、より多くの資料をもとにして個々の評価を行うために、5月中旬に5教科の学年一斉のテスト(確認テスト)を実施しています。

この時期のテストは、1年生は授業日数少なく家庭訪問が行われ、また2・3年生も学年が変わりまだ日が浅いことなどもあり、どうしてもテスト範囲が他の時期の定期テストに比べ、狭くなってしまいます。そのため1学期は確認テストと期末テストの割合を1:2にする重み付けを行い、テストの時間を各教科30分間、満点を50点として行います。ご理解をお願いいたします。